

確かな学力をつけるために

～ 平成23年度「基礎・基本」定着状況調査の分析と課題克服の取り組み ～

広島市立五日市中学校

校長 中野正巳

1 はじめに

本年度も広島県内の中学2年生を対象とした、「基礎・基本」定着状況調査が実施されました。調査内容は、「生活と学習に関する意識・実態」と、国語、数学、英語（実技調査を含む）の3教科の学習です。本調査から、本校2年生の生活と学習、学力の傾向を分析して課題を明らかにし、本校教育の改善に生かします。

なお、文中の質問紙調査の%は回答生徒中「よくあてはまる」と「ややあてはまる」と答えた生徒の合計です。

■教科別平均通過率

	国語	数学	英語
広島県	73.2	74.7	71.9
広島市	70.2	72.4	69.9
五日市中学校	65.6	72.3	66.6

実施期日 平成23年6月14日(火)

調査人数 広島県 22,224人

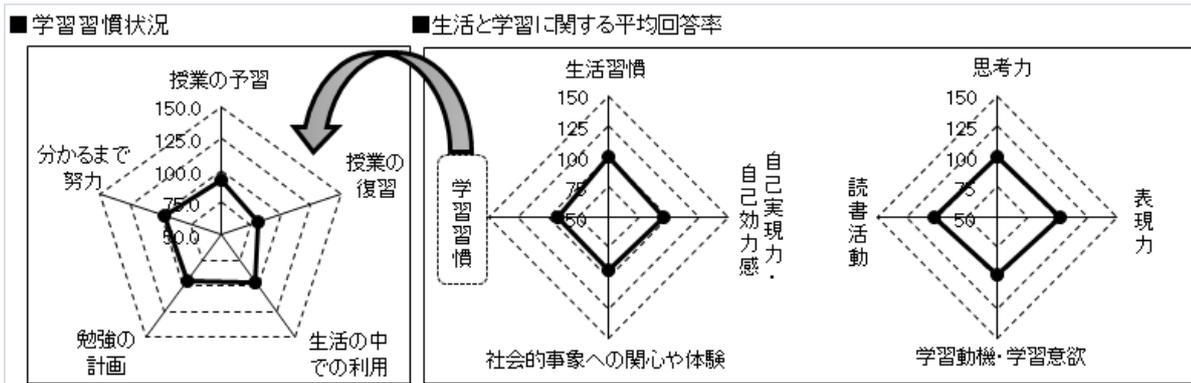
広島市 8,946人

五日市中学校 272人

2 生活と学習に関する意識・実態についての質問紙調査

《調査結果の概要》

広島県の平均を100とした場合の本校の状況です。「授業の復習」が特に低くなっています。



《分析》

「生活と学習に関する意識・実態」の質問紙調査から、本校2年生は次のように分析できます。

生活習慣に関しては、「学校に行くのが楽しい」と感じている生徒が82.0%（県平均83.9%）、「毎朝朝食をとって登校している」生徒が94.5%（県平均94.6%）、「起床時間、就寝時間が大体決まっている」生徒が80～93%、（県平均も同程度）「外に出て体を動かす」生徒は81.6%（県平均79.1%）学校や社会のルールを守っている」生徒が91.4%（県平均87.6%）など、生活習慣は確立していると考えられます。

学習習慣に関しては「予習をしている」、「分かるまで努力する」、「ものごとを解決する方法をいくつも考える」、

「もっと力をつけたいから勉強しています」などは県平均と同程度ですが、家庭で「復習をしている」生徒が42.4%（県平均52.1%）と、授業で学んだことを復習する生徒の割合が少ない傾向が顕著です。平日の本校生徒の家庭学習の時間も、県平均よりかなり少なく（例「まったく勉強していない生徒」12.9%、県平均9.0%）、毎日家庭で復習する習慣を身に着ければ、本校生徒の学力は現在より確実に向上すると考えられます。

昨年度心配された「自己実現力・自己効力感」は、夢や目標を持っている生徒が71.0%（県平均74.3%）、「自分にはよいところがある」が55.9%（県平均60.5%）、「周りの人から認められている」が48.2%（県平均48.8%）、「努力すれば、自分もたいていのことはできる」と思っている生徒が73.8%（県平均78.1%）と県平均よりは低いものの、昨年度より改善し、一昨年度までと同程度となりました。自己実現力、自己効力感を持たせる教育の充実が学力向上の鍵となると考えられますので、これまで同様力を入れたいと考えています。

「社会的事象への関心や体験」は、各項目とも県平均と同程度です。しかし、「地域や子ども会などの行事に参加しています」に関しては21.4%（昨年度15.5%、県平均42.6%）と極端に低くなっています。

以上の結果を踏まえ、今後も、学校の教育活動全体の中で生活習慣、学習習慣を向上させ、生徒が自分のよさを認め、周囲からも認められているという気持ちが高まるよう、達成感や成功体験が得られ、自信を持たせる体験活動や、部活動を充実させていきます。ただ、生活習慣、学習習慣の定着には、ご家庭でのご指導も重要であり、ご家庭でもご指導、ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

《今後の学校教育全体を通しての具体的取り組み》

- ① 生徒が授業で学んだことを家庭で復習するような取り組みと指導を充実させる。
- ② 学級活動、教育相談などで、生活習慣が乱れ、学習意欲の低下している生徒への支援を一層充実させる。
- ③ 各教科担任は学級担任と連携して、課題未提出者への指導や支援をこれまで以上に行う。

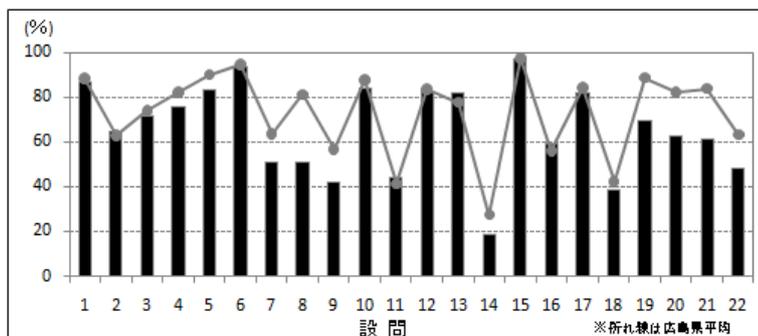
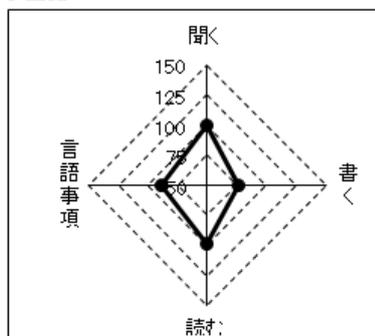
3 教科の学習に関する調査 —教科学習への意識、3教科の調査結果

(1) 国語

《平均通過率》		《領域別通過率》	
広島県平均通過率	73.2%	聞くこと	県75.7% 本校75.6%
広島市平均通過率	70.2%	書くこと	県79.5% 本校60.4%
本校通過率	65.6%	読むこと	県59.1% 本校58.0%
		言語事項	県80.9% 本校72.1%

■ 領域別平均通過率及び設問別通過率(※ 領域別平均通過率は、広島県の平均を100とした場合の状況)

● 国語



《教科学習への意識と通過率の分析》

教科学習に関する意識は、どの項目も県平均より低く、生徒の国語学習に対する関心・意欲・態度を高める必要

があります。

設問ごとの通過率ですが、「聞くこと」「読むこと」の二領域は県通過率と同程度か若干下回っている程度です。では、なぜ全体の通過率が低いのか。それは、「言語活動」と「書くこと」の領域の各設問の通過率が県平均より10～15%低いことが原因です。

「書くこと」の領域（設問19～22）は、全体的に通過率が県平均に比べ低いのですが、特に「意見と理由を明確にした記述」は48.2%（県平均63.2%）と通過率が50%以下です。ただ、昨年度の、この問題の通過率は21.5%であり、昨年度よりは伸びており、取り組みの成果は出ていると考えられます。

「言語事項」の領域で通過率が特に低いのは設問（設問7～9）、「主義と述語の関係」50.7%（県平均63.8%）「文語のきまり」50.7%（県平均81.3%）「行書の基礎」42.3%（県平均56.9%）です。特定の設問の通過率が低いので、重点的に指導することで力をつけたいと考えています。

今回の調査で、本校生徒は昨年度同様「書くこと」の領域が極端に身につけていない。また、「言語事項」の特定の内容に課題があることが明確になりましたので、これまでの取り組みを強化、継続することで、学力の向上に努力します。

《調査の分析にもとづいた重点課題》

- ◎ 「言語事項」の主語と述語の理解が定着していない。
- ◎ 「書くこと」の領域において苦手意識が見られ、記述問題の通過率が極端に低い。特に、理由をあげて意見を述べる力が極端に不足している。

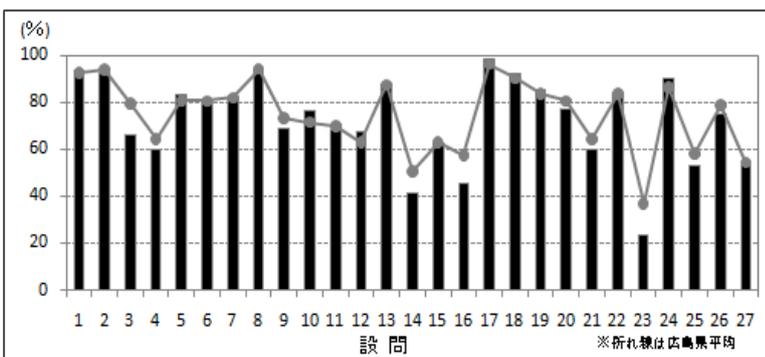
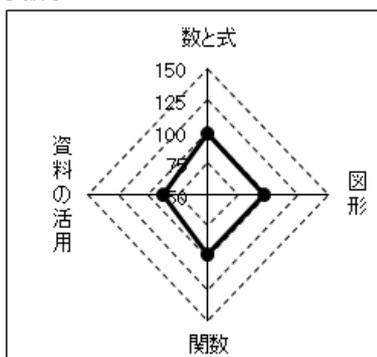
《重点課題克服のための今後の取り組み》

- ① 授業中、また、課題として計画的にドリル学習を取り入れ、授業で学んだ基礎基本の定着を図る。
- ② 短い文章を継続して書かせることによって、「書く」活動への抵抗感を無くす。
- ③ 基本的な構成を繰り返し指導し、ワークシートを活用するなどして、具体的な例文をまねて文章を書かせることを繰り返すことで、文章の形式を身に付けさせるよう指導する。

(2) 数学

《平均通過率》		《領域別通過率》	
広島県平均通過率	74.7%	数と式	県 77.1% 本校 75.6%
広島市平均通過率	72.4%	図形	県 75.5% 本校 73.1%
本校通過率	72.3%	数量関係	県 72.2% 本校 70.0%
		資料の活用	県 60.2% 本校 52.9%

● 数学



《教科学習への意識と通過率の分析》

教科学習に関する意識は、どの項目も県平均より低く、特に、「数学の授業を楽しみにしている」生徒が 31.3%（県平均 51.0%）、「数学の授業がよく分かる」が 55.4%（県平均 71.6%）と低いことが心配されます。生徒の数学に対する関心・意欲・態度を高める必要があります。

しかし、設問ごとの通過率に関しては「分数の除法（設問 3）」「累乗の計算（設問 4）」「垂直な面（設問 14）」「角すいの体積（設問 16）」「グラフの考察（設問 23）」「相対度数の意味（設問 25）」の 6 つの設問が県平均を下回る。他は、県平均を若干下回るか、上回るものもあり、全体としてこれまでになく、高い通過率を示しています。

生徒の苦手とする設問は限定されており、今後、苦手とする項目を重点的に指導することで生徒の学力は、さらに向上すると考えられます。

《調査の分析に基づいた重点課題》

- ◎数と式では「分数の除法」「累乗の計算」が身につけていない。
- ◎図形では「垂直な面」「角すいの体積」を求める力が身につけていない。
- ◎関数では「グラフの考察」に関する力が身につけていない。
- ◎数量関係では「相対度数の意味」が身につけていない。

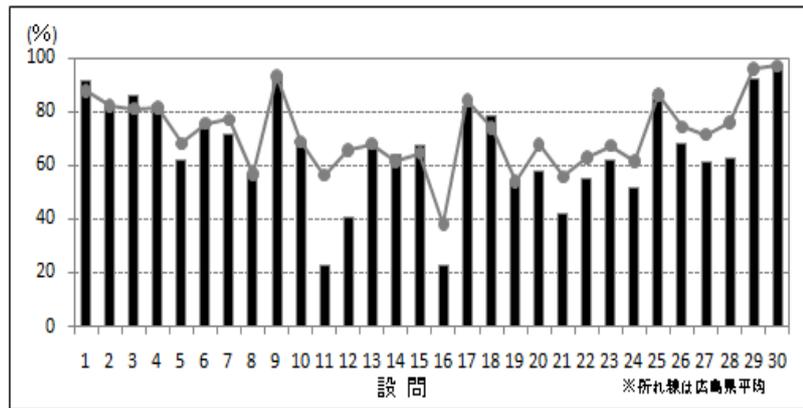
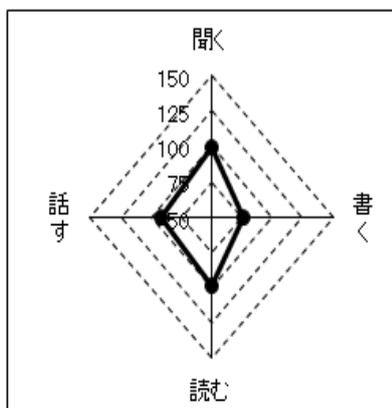
《重点課題克服のための今後の取り組み》

- ① 引き続き反復学習に重点を置き、正しい計算方法を定着させる。
- ② 時間が経過すると理解力が低下しやすい教科なので、定期的に復習の時間を設定し、基礎基本を定着させる。
- ③ 図形やグラフ、資料の活用についての指導を重点的に行う。

(3) 英語

《平均通過率》		《領域別通過率》		
広島県平均通過率	71.9%	聞くこと	県 78.2%	本校 77.9%
広島市平均通過率	69.9%	読むこと	県 66.7%	本校 65.6%
本校通過率	66.6%	書くこと	県 62.4%	本校 47.4%
		読むこと(実技)	県 86.5%	本校 84.9%
		話すこと(実技)	県 83.1%	本校 76.1%

●英語



《教科学習への意識と通過率の分析》

「英語の勉強が好き」な生徒は 55.9% (昨年 52.4%、県平均 59.8%)、「英語の授業を楽しみにしている」生徒は 48.8% (昨年 39.8%、県 52.1%)と、県平均よりは低い状況ですが昨年度よりも改善しています。また、「授業がよく分かる」と答えた生徒は 67.3% (昨年 56.4%、県 66.1%) と、県平均を上回りました。他の意識面に関しても昨年度よりも改善しています。ただ、全体として県平均よりも肯定的な回答が少なく、英語学習への意識の低さが心配されます。

各設問の通過率ですが、県通過率を大きく下回っている領域が「書くこと」(設問 11,12,20~24) で、その他の領域は、昨年度よりも向上しています。「書くこと」の領域全体の通過率が 47.4% (昨年は 39.4%) と極端に低く、「基本的な文のきまりを理解した作文(設問 11,12)」の通過率は 22.8% (県平均 56.3%) と 40.8% (県平均 65.5%) しかありません。「つながりのある英文を書くこと(設問 24)」も 51.5% (県平均 61.4%) と低い通過率です。昨年度よりは大幅に向上しており、指導の成果は出ているものの、英語も国語と同様、「書くこと」の領域が大きな課題であり、早急に克服する必要があります。

なお、その他の領域で通過率の低い設問 16 は、「読むこと」の領域で「適切な語を用いた会話文の組み立て(設問 13~16)」です。

《調査の分析にもとづいた重点課題》

◎「書くこと」に関する領域の基礎基本が定着していない。

《重点課題克服のための今後の取り組み》

- ① 「ひろしま型カリキュラム」の繰り返し学習用教材を使用し、既習事項をフィードバックさせて基礎基本の確かな定着を図る。
- ② 毎日ノートや練習プリントで英文を書くことを反復練習させる。
- ③ ①②を継続的に指導した上で、自己表現活動、自由英作文に取り組みせ、書く力の向上を図り、英語で積極的に自己表現する態度を養わせる。

4 まとめ

昨年度との比較では、数学は県平均との差が少なくなり、学力の定着が見られますが、国語と英語に関しては、「書くこと」の領域の定着が昨年度と同様に低く、県平均との差は、ほとんど変化がありませんでした。

しかし、本年度は実施していませんが、3年生で実施していた「全国学力・学習状況調査」では、過去のデータ(平成 18~21 年度)から、本校の生徒は3年次には学力が定着し、県平均との差が少なくなっています。つまり、2年次のこの調査で、課題を明らかにし、指導方法を工夫改善することにより、一定の効果が見られています。

本年度の調査でも、本校生徒の課題は学習習慣の確立であり、国語、英語の「書くこと」の領域であることが明らかになりました。これまで以上に、1 学年から計画的、継続的に学習指導に取り組むことで、学力の向上を目指します。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。